



日豪の戦後和解と友好関係を象徴する街 カウラ

(一財)自治体国際化協会シドニー事務所 所長補佐 佐々木 悠介 (東京都派遣)

カウラ・ブレイクアウトとは

シドニーから道路距離で約 320km 西に位置する人口 1 万人ほどのニューサウスウェールズ州カウラ市には、日本とオーストラリアが敵対国であった第二次世界大戦時に捕虜収容所が置かれていました。当時、約 4,000 人が収容され、このうち日本人は約 1,100 人収容されていたといわれています。1944 年 8 月 5 日の午前 2 時頃、「生きて虜囚の辱めを受けず」との戦陣訓を叩き込まれていた日本人捕虜による脱走事件（カウラ・ブレイクアウト）が発生し、231 人の日本人捕虜と収容所の警備などを行っていた 4 人のオーストラリア人衛兵が亡くなりました。



カウラ捕虜収容所跡地（出典：Visit Cowra）

戦後、カウラ・ブレイクアウトの犠牲者の墓地はしばらく放置されていましたが、これを不憫に思ったカウラ退役軍人会のメンバーが、かつての敵対国である日本に対する反日感情が社会に残る中にもかかわらず、維持管理するようになりました。その後、在オーストラリア日本国大使館、カウラ市、オーストラリア連邦政府の協力のもと、第二次世界大戦時にオーストラリア国内で亡くなった日本人捕虜等を埋葬する日本人戦没者等墓地がカウラ市内の共同墓地の一角に整備され、適切に管理されるようになりました。

現在、カウラ市内には、日本人戦没者等墓地に加え、

捕虜収容所跡地、日本庭園、サクラアベニュー、世界平和の鐘などが整備され、今ではカウラ市は日本とオーストラリアの戦後和解と友好関係を象徴する街となっています。



カウラの日本人戦没者等墓地の慰霊碑

カウラ日本庭園

カウラ市には、南半球最大といわれる 5 ヘクタールの敷地を有する美しい日本庭園が整備されています。カウラ日本庭園は、日本とオーストラリアの友好のあかしとして、オーストラリア連邦政府、日本万国博覧会記念基金、日本商工会議所などが拠出し整備されました。この回遊式日本庭園は、日本の著名造園家である中島健氏が設計・施工監理し、茶室や盆栽鑑賞室などを備えています。

カウラ日本庭園には、これまでに、日本から多くの皇族の方々が御訪問され、また、閣僚や首長も訪問されています。毎年、カウラに桜が咲く 9 月下旬には、日本文化の紹介と日本とオーストラリアの友好親善を目的にカウラ桜まつりが開催され、カウラ日本庭園内で和太鼓や日本武道などの実演や、生け花や盆栽の展示などが行われ、多くの来園者が日本文化を楽しんでいます。



カウラ日本庭園の高台からの風景

カウラ・ブレイクアウト 75 周年事業

毎年、カウラ・ブレイクアウトの発生した8月5日には、慰霊のための式典が開催されています。特に本年はカウラ・ブレイクアウト 75 周年の節目の年であり、慰霊のためのさまざまな事業が行われ、日本およびオーストラリアなどから多くの関係者が集まり、犠牲者を追悼し平和を祈念しました。クリアは、カウラ市を訪問し連の慰霊行事に参加しましたので、その様子を中心にレポートします。

<カウラ市の歴史を紹介するアプリの公開>

カウラ・ブレイクアウト 75 周年事業の一環で、カウラ市における戦後の和解や平和に向けての他に類をみない歴史や、捕虜収容所跡地などカウラ市内の歴史的に重要な場所・史跡の解説を、カウラ市関係者によるナレーションや写真によって理解することができるアプリ「Cowra Voices」が公開されました。このアプリは、オーストラリア連邦政府、カウラ市、国際交流基金などの協力を得て、有志の方々により作られました。以下のサイトから無料でダウンロードできます。

< <https://www.cowravoices.org/> >

<世界平和の鐘セレモニー>

カウラ市庁舎前には、日本語で「世界平和の鐘」と刻まれた鐘が設置されています。この世界平和の鐘は、世界平和を訴えることを目的に世界各地に置かれています。世界平和の鐘は、たいていはその国の首都に設置されていますが、カウラ市の長年の世界平和への貢献が評価され、オーストラリアにおける世界平和の鐘は 1992

年にカウラ市に設置されました。

カウラ・ブレイクアウト 75 周年事業の一環として世界平和の鐘セレモニーが行われ、ビル・ウエストカウラ市長、高橋礼一郎在オーストラリア日本国大使をはじめとする関係者は、カウラ・ブレイクアウトの記憶を風化させないよう、世界平和の鐘を鳴らし、平和を願いました。



世界平和の鐘をつくビル・ウエストカウラ市長（右）と高橋礼一郎在オーストラリア日本国大使（在オーストラリア日本国大使館提供）

<ランタンパレード>



ランタンパレード開始前の様子

世界平和の鐘セレモニーの後、市民参加型のイベントとして、日本庭園から捕虜収容所跡地までの間のサクラアベニューを通るランタンパレードが実施されました。カウラ・ブレイクアウトの犠牲者の数の折鶴の形をしたランタンを、老若男女が捕虜収容所まで歩いて運び、75 周年事業の一環で捕虜収容所跡地に設置されたインスタレーションの前に並べ、平和を願いました。



捕虜収容所跡地のインスタレーションと折鶴形の巨大ランタンを含む数多くのランタン



カウラ・ブレイクアウト 75 周年事業の一環で捕虜収容所跡地に設置されたインスタレーション。野球をする日本人捕虜の様子などが表現されている

<捕虜収容所跡地および墓地での献花>

カウラ・ブレイクアウト発生から 75 年にあたる 8 月 5 日、捕虜収容所跡地、日本人戦没者等墓地、オーストラリア人戦没者等墓地の 3 カ所で犠牲者の慰霊のため献花が行われました。75 周年の節目の年ということもあり、オーストラリア国内だけでなく、新潟県上越市や福岡県などの地方自治体関係者をはじめ、日本からも大勢の関係者が参加しました。カウラ捕虜収容所に収容されていた元捕虜で現在唯一存命といわれている 98 歳の方



クリア常務理事による献花の様子

も、かつての仲間の慰霊のために日本から駆け付けました。また、クリア常務理事も献花しました。

なお、その他にも、カウラ・ブレイクアウトが発生した 8 月 5 日の午前 2 時頃に捕虜収容所跡地で追悼行事が行われたり、地元美術館にて特別展示が行われるなど、数多くの 75 周年事業が実施されました。

こうした一連のカウラ・ブレイクアウト 75 周年事業の様子は、オーストラリアや日本の多くのメディア



カウラ捕虜収容所跡地に献花された花輪に取り上げられました。

上越市とカウラ市の平和友好交流

上越市には、第二次世界大戦時に捕虜収容所が置かれ、オーストラリア人をはじめとする兵士が亡くなった歴史があり、カウラ市と共通点を有します。平和を願う両市民の交流をきっかけに、2003 年、上越市とカウラ市との間で「平和友好交流意向書」が調印されました。その後、両市は、首長の相互訪問、中高生のホームステイ、職員相互派遣研修などの交流事業を行い、友好を深めてきました。

カウラ・ブレイクアウト 75 周年に際し、上越市の村山秀幸市長や上越日豪協会の方などがカウラ市を訪問し、カウラ・ブレイクアウト 75 周年事業や学校での平和学習会に参加し、カウラ市長をはじめとするカウラ市の方々と平和友好交流を進めました。

おわりに

悲劇的な事件の舞台となったカウラ市は、関係者の並々ならぬ努力により、現在は日本とオーストラリアの良好な関係を象徴する街になっています。

カウラ・ブレイクアウトの記憶が、風化することなく、戦争を知らない若い世代へと引き継がれ、平和を願う上越市とカウラ市などの両国の地方自治体の間の友好交流が今後も活発に行われ、両国の良好な関係が今後も継続するよう、クリアシドニー事務所としても引き続き尽力していきます。